

TD-3

Analog Bass Line Synthesizer with VCO, VCF, 16-Step Sequencer, Distortion Effects and 16-Voice Poly Chain

JP

JP 安全にお使いいただく
ために**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なブ口用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブル およびツイスト ロッキングプラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。

3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。
9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。
10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。
11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。
12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。
13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。



14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもののみをお使いください。

もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いただけません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45°C 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas, Klark Teknik, Lab Gruppen, Lake, Tannoy, Turbosound, TC Electronic, TC Helicon, Behringer, Bugera, Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2023 無断転用禁止。

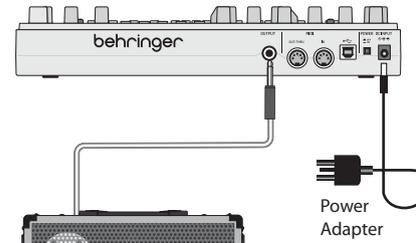
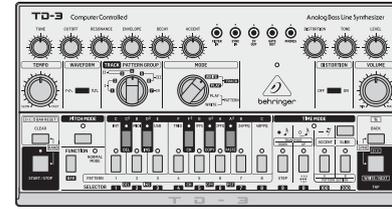
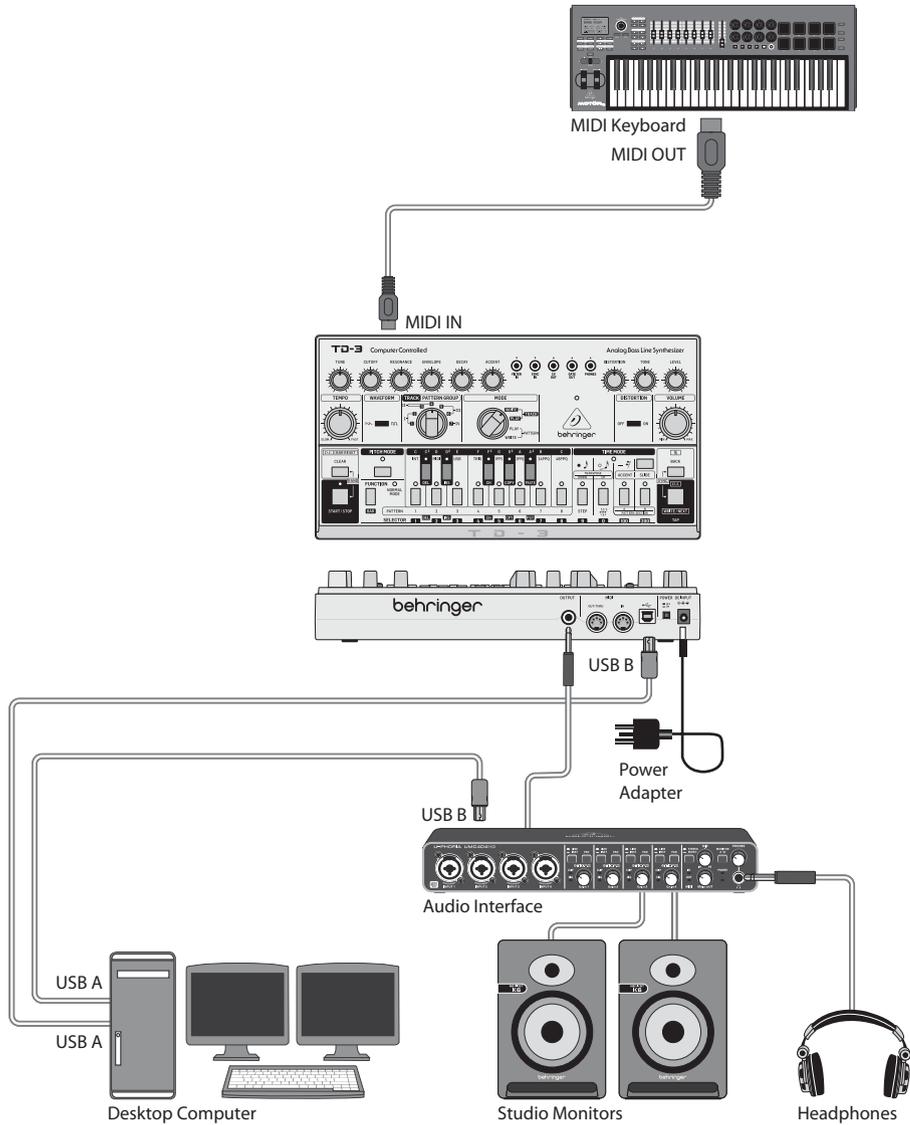
限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

TD-3 フックアップ

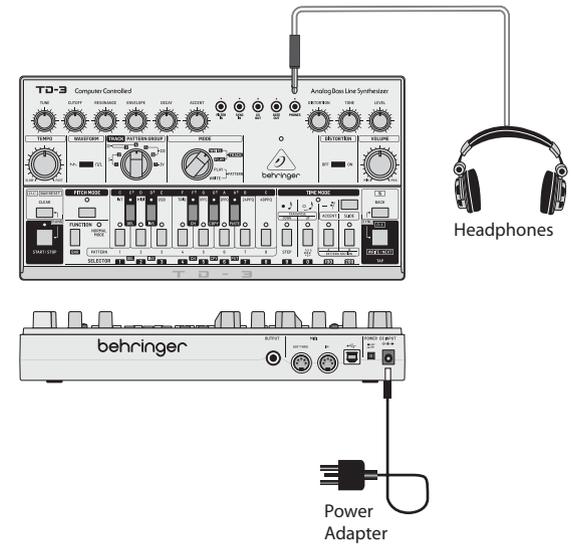
ステップ 1: フックアップ

Studio System



Keyboard Amplifier

Practice System



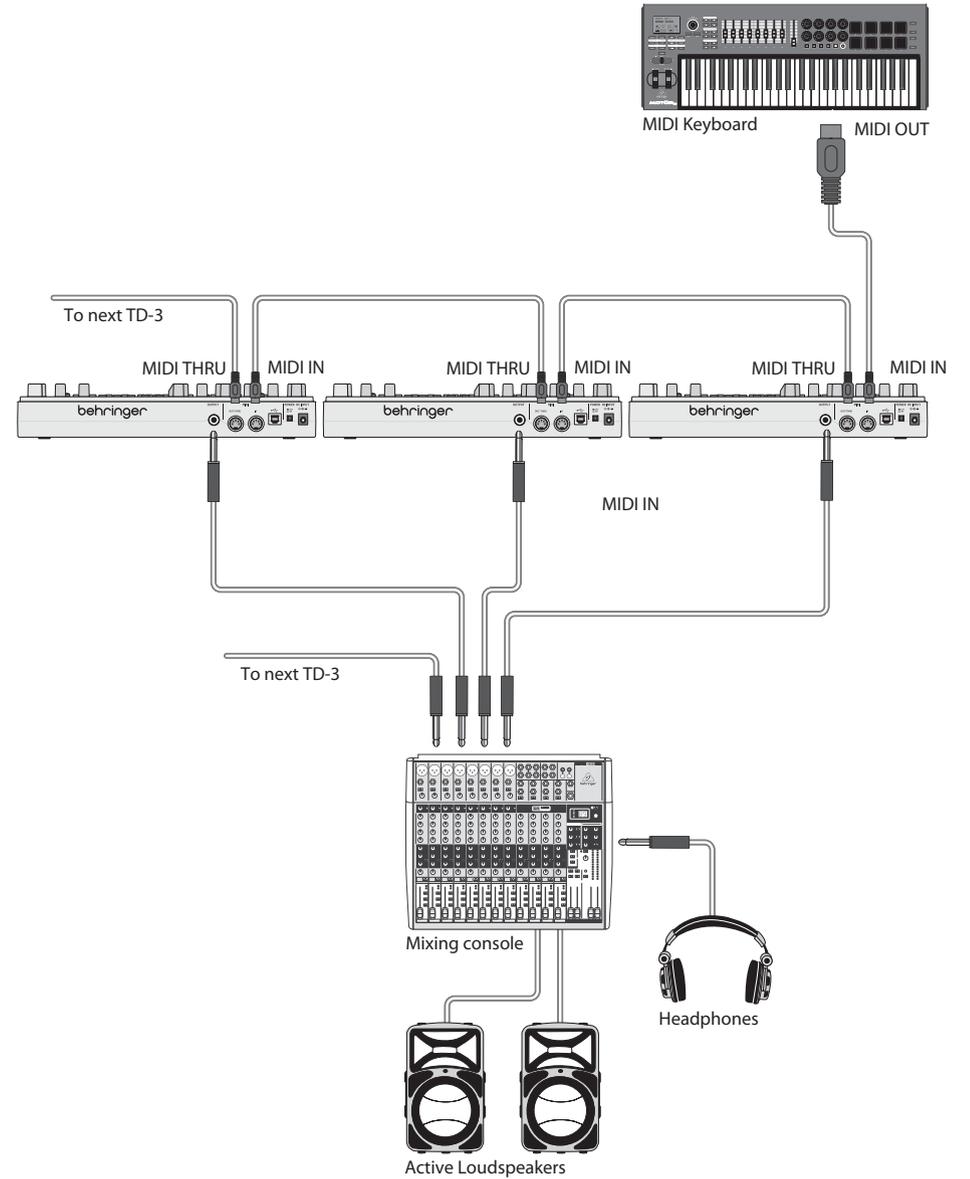
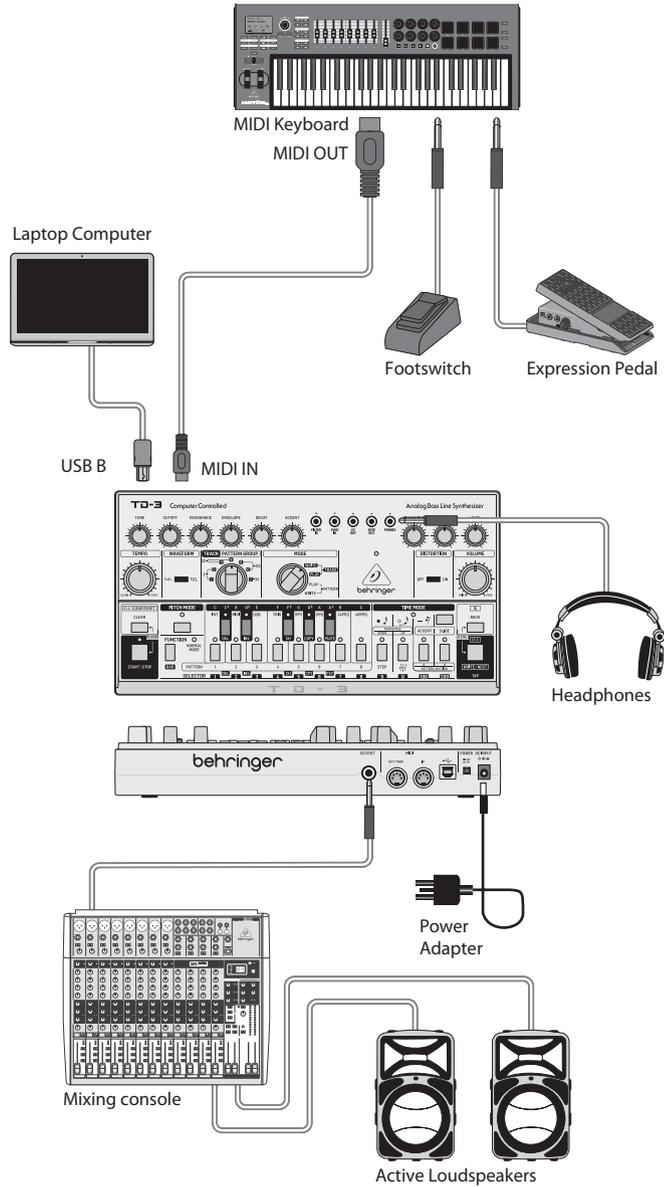
TD-3 フックアップ

ステップ 1: フックアップ

JP

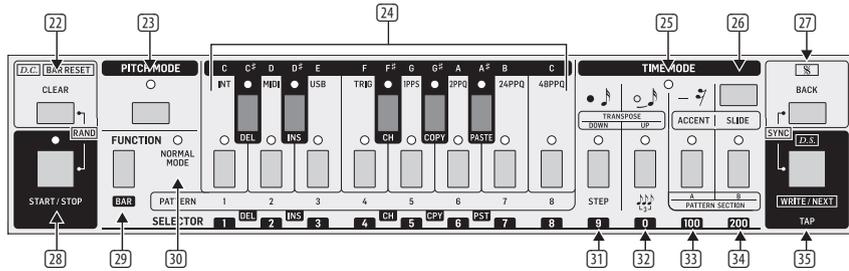
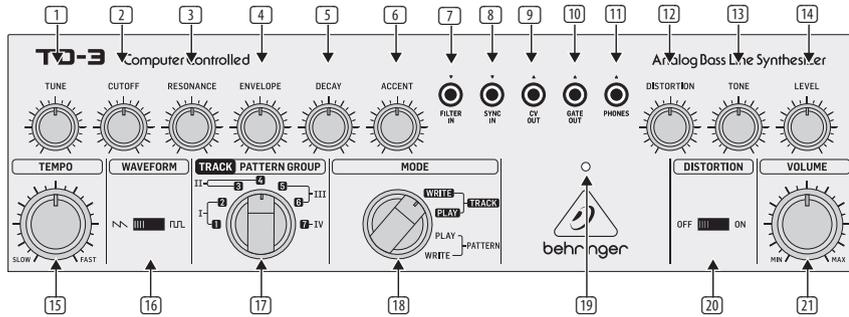
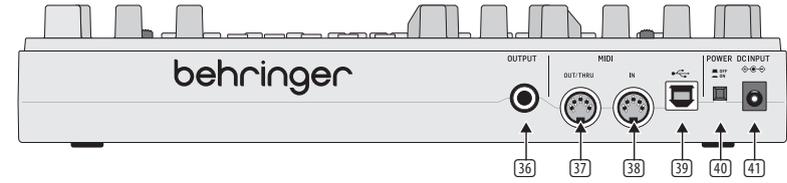
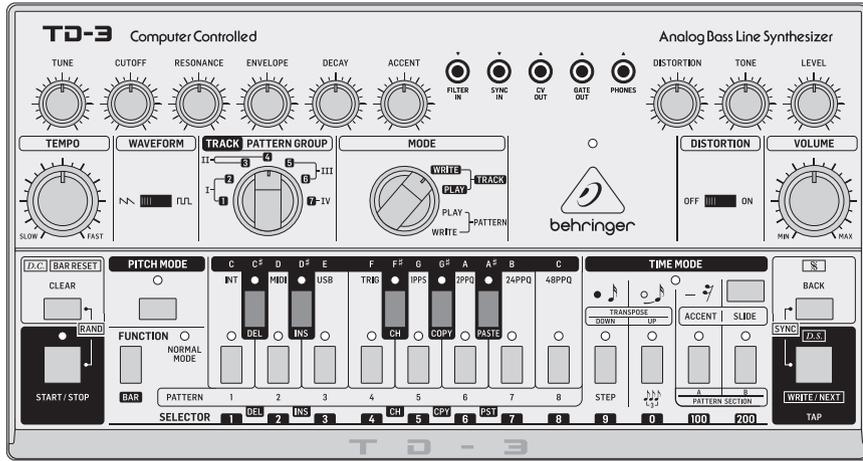
Live System

Poly Chain System



TD-3 コントロール

ステップ 2: コントロール



TD-3 コントロール

ステップ 2: コントロール

- 1 **TUNE (チューン)** – 内蔵 VCO オシレーターの周波数を、中央から約 1 オクターブの範囲で調節します。
- 2 **CUTOFF (カットオフ)** – ローパス VCF フィルターのカットオフ周波数を調節します。カットオフから上の周波数を減衰します。
- 3 **RESONANCE (レゾナンス)** – カットオフ周波数周辺の信号レベルを強調する度合いを調節します。
- 4 **ENVELOPE (エンベロープ)** – エンベロープジェネレーターにより VCF カットオフ周波数に適用される、モジュレーションの深さを選択します。
- 5 **DECAY (ディケイ)** – エンベロープが、現在のレベルから最小まで減衰するのにかかる時間の長さを制御します。
- 6 **ACCENT (アクセント)** – アクセントをプログラムしたノートの出力に対する、アクセントの量を調節します。

パッチベイ (3.5 mm TS 入出力接続端子)

- 7 **FILTER IN (フィルター入力)** – 内蔵 VCO オシレーターの代わりに、外部オーディオ信号を接続する入力端子です。
- 8 **SYNCIN (シンク入力)** – 外部クロックおよびスタート/ストップ信号を使用できます。
- 9 **CV OUT (CV 出力)** – 1V/オクターブの、コントロールボルトテージ出力。
- 10 **GATE OUT (ゲート出力)** – ゲート出力。
- 11 **PHONES (ヘッドフォン出力)** – ヘッドフォンを接続する、3.5 mm TRS 出力です。音量が下がっていることを確認してから、ヘッドフォンを装着してください。

ディストーション部

このコントロール群は、ディストーションスイッチ (20) がオンになっている時のみ、効果を発揮します。この回路は、信号パスでは、音量コントロールと最終的なオーディオ出力の直前に位置します。

- 12 **DRIVE (ドライブ)** – ディストーションの量を調節します。
- 13 **tone (トーン)** – トーンを調節します。
- 14 **LEVEL (音量)** – ディストーションの出力レベルを調節します。

一般的なコントロール

- 15 **TEMPO (テンポ)** – パターンおよびトラックがプレイするレートを、スロー〜速いテンポまで調節します。
- 16 **WAVEFORM (波形)** – 内蔵 VCO オシレーターの波形を、逆三角波またはパルス波のいずれかに設定します。
- 17 **TRACK/PATTERN GROUP (トラック / パターングループ)** – トラックの書き込みおよびプレイに際しては、トラック 1 ~ 7 の中から、パターンの書き込みおよびプレイに際しては、パターングループ I、II、III、IV の中から、それぞれ選択します。グループ I のパターンはトラック 1 または 2 のみ、グループ 2 のパターンはトラック 3 または 4、グループ III ではトラック 5 または 6、グループ IV ではトラック 7 のみとなります。
- 18 **MODE (モード)** – Track Write (トラック書き込み)、Track Play (トラックプレイ)、Pattern Play (パターンプレイ)、Pattern Write (パターン書き込み) のいずれかを選択します。
- 19 **電源 LED** – 背面パネルの電源スイッチがオンで、ユニットに電源が供給されていると点灯します。
- 20 **DISTORTION ON/OFF (ディストーション オン / オフ)** – “OFF” (オフ) では、ディストーションはバイパスされ、“DRIVE” (ドライブ)、“TONE” (トーン) および “LEVEL” (音量) コントロールのエフェクトはかかりません。
- 21 **VOLUME (音量)** – 背面パネルの出力端子およびヘッドフォン出力の、出力レベルを調節します。ヘッドフォンは、必ずこの音量を下げてから装着してください。

シーケンサー部

- 22 **D.C./BAR RESET/CLEAR (DC / バーリセット / クリア)** – メモリーからパターンをクリアする際、トラックの頭に戻る際に使用します。また最後のパターンをトラックに追加したことを合図します。
- 23 **PITCH MODE (ピッチモード)** – ピッチモードをオン / オフします。ピッチモードでは LED が点灯します。パターン作成にあたり、ノートを入力する時に使用するモードです。
- 24 **13 鍵キーボード** – このスイッチ群は 13 鍵キーボードになり、パターン作成時のノート選択に使用します。下の 8 つのスイッチは、パターンおよびトラックの作成、保存、選択にも使用します。

- 25 **TIME MODE (タイムモード) LED** – タイムモードの際に LED が点灯します。
- 26 **TIME MODE ON/OFF (タイムモード オン / オフ)** – タイムモードのオン / オフを選択します。このモードは、ピッチモードでノートを入力した後、タイミングの入力 (ノート、タイ、またはレスト) に使用します。
- 27 **BACK (バック)** – パターンをステップスルーする際、最後にプレイしたノートを選択し、編集可能な状態にするボタンです。本ボタンと “WRITE / NEXT” (書き込み / 次 (35) ボタンは、シンクおよびクロック設定の閲覧および設定変更にも使用します。
- 28 **START / STOP (スタート / ストップ)** – パターンおよびトラックの再生をスタート / ストップするボタンです。プレイ中は LED が点灯します。
- 29 **FUNCTION (機能)** – TD-3 をピッチモードあるいはタイムモードからノーマルモードへ戻す、またパターンおよびトラックの書き込み時に多様な操作をおこなう、多目的スイッチです。
- 30 **NORMAL MODE (ノーマルモード) LED** – ユニットがノーマルモードの間、点灯する LED です。
- 31 **TRANSPOSE DOWN (トランスポーズ ダウン) / ノート / STEP (ステップ)** – ピッチモードではオクターブを下げ、タイムモードではノートを入力、パターンではステップ回数を入力します。
- 32 **TRANSPOSE UP (トランスポーズ アップ) / タイ / 三連符** – ピッチモードではオクターブを上げ、タイムモードではタイを入力、そしてパターンを三連符モードに設定します。
- 33 **ACCENT / PATTERN A (アクセント / パターン A)** – ピッチモードでノートにアクセントをつけ、1A、2A–8A までの、“A” パターンを選択します。
- 34 **SLIDE / PATTERN B (スライド / パターン B)** – ピッチモードで、ノートにスライドを付加し、1B、2B–8B までの、“B” パターンを選択します。
- 35 **D.S./WRITE/NEXT/TAP (D.S. / 書き込み / 次 / タップ)** – トラックにパターンを書き込み、パターンの次のノートを選択し、タッピングにより手動でタイミングを付加します。このスイッチと BACK (戻る-27) は、シンクおよびクロック設定の閲覧および変更にも使用します。

背面パネル

- 36 **OUTPUT (出力)** – お使いのシステムのラインレベル オーディオ入力を接続する、¼ インチ TS 出力端子です。本装置の音量が下がっており、システムの電源がオフになっていることを確認してから、接続をおこなってください。
- 37 **MIDI OUT/THRU (MIDI 出力 / スルー)** – MIDI アウトデータの出力および、MIDI 入力を受信した MIDI データのパススルーをおこなう、5 ピン DIN ジャックです。
- 38 **MIDI IN (MIDI 入力)** – 外部ソースから MIDI データを受信する、5 ピン DIN ジャックです。外部ソースとは一般的に、MIDI キーボード、外部ハードウェアシーケンサー、MIDI インターフェイスを装備したコンピューターなどです。
- 39 **USB PORT** – コンピューターと接続するための、USB B タイプジャックです。TD-3 は、MIDI 入出力に対応した、クラスコンプライアント USB MIDI 機器としてコンピューターに表示されます。
USB MIDI IN – アプリケーションからの MIDI データを受信します。
USB MIDI OUT – アプリケーションへ MIDI データを送信します。
- 40 **POWER (電源)** – シンセサイザーをオン / オフします。必要な接続をすべて完了してから、ユニットの電源を入れてください。
- 41 **DC INPUT (DC 入力)** – ここに付属の 9 V DC 電源アダプターを接続します。電源アダプターは、100 V-240 V、50 Hz/60 Hz に対応した AC コンセントに接続します。必ず付属のアダプターのみをご使用ください。

TD-3 はじめに

概要

本ガイドでは、TD-3 アナログ ベースライン シンセサイザーのセットアップ方法と、機能について簡単にご説明します。

接続

TD-3 とお使いのシステムとの接続方法は、本ガイド冒頭の接続例をご参照ください。

ソフトウェアセットアップ

TD-3 は USB クラスコンプライアント MIDI 機器のため、ドライバーのインストールは不要です。TD-3 は、Windows および MacOS では、追加のドライバーは不要です。

ハードウェアセットアップ

システムの接続をすべて済ませます。いかなる接続作業においても、TD-3 の電源はオフにしておいてください。

必ず TD-3 に付属の電源アダプターをご使用ください。サウンドシステムは必ずオフにしておいてください。

TD-3 の電源は、パワーアンプリファァーより先にオンにし、電源を切る際は最後にしてください。電源オン/オフによる、スピーカーのポップノイズや、ドンという打撃音を防ぎます。

ウォームアップ時間

TD-3 を録音またはライブパフォーマンスにお使いいただく前に、15 分以上のウォームアップ時間をお取りいただくことを推奨します（温度の低い場所から運び込んだ際は、さらに時間を長くしてください）。そうすると、精密アナログ回路が通常動作温度に達する時間を確保でき、正確なパフォーマンスが得られます。

シンクおよびクロックタイプの設定

セレクタースイッチ 1、2、3 または 4 は、クロックソース INT（内部）、MIDI、USB または TRIG（トリガー）をそれぞれ表します。

セレクタースイッチ 5、6、7 または 8 は、クロックレート 1PPs、2PPQ、24PPQ または 48PPQ をそれぞれ表します。

1. “Function” を押します。
2. シーケンスがプレイ状態でないことを確認します。

3. “BACK” および “WRITE/NEXT” を同時に押し、シンク設定モードに入ります。
4. セレクター 1-8 の LED が点灯し、現在のクロックソース (1-4) およびクロックレート (5-8) が点滅します。必要に応じて、3 秒以内に変更を加えます。
5. セレクター 1、2、3 または 4 を押して、クロックソースを INT、MIDI、USB または TRIG のいずれかに変更します。
6. セレクター 5、6、7 または 8 を押して、クロックレートを 1PPs、2PPQ、24PPQ または 48PPQ のいずれかに変更します。
7. ボタンを押すか、または変更作業をせずに 3 秒間が過ぎると、保存されます。
8. 手順 3 を繰り返す、実行した選択を確認します。

警告: 外部クロックを使用しない場合は、必ずクロックソースを INT（内部）に設定します。
注意: クロックレート 24 または 48PPQ（パルスパー クォーター）が推奨です。

チューニング

TD-3 でのサウンド作成を素早く開始するには、下記の容量でチューニング機能をご使用ください。なお、このモードではノートが 1 オクターブ上にトランスポーズされますのでご注意ください。

1. VOLUME（音量）が下がっていることを確認します。
2. MODE（モード）スイッチを PATTERN PLAY（パターンプレイ）にします。
3. PITCH MODE（ピッチモード）スイッチを長押しし、PATTERN 6（パターン 6）スイッチを押します（ノート A）。
4. これで、WRITE/NEXT（書き込み/次）を押すたびに、ヘッドフォンまたはスピーカーでこのノートが聞こえるはずですが、VOLUME レベルを調節し、快適なリスニングレベルに設定します。
5. TUNE（チューン）コントロールを使用し、出力周波数を正確に 220 Hz に設定します。周波数は上下に調整でき、また他の楽器に合わせて微調整も可能です。
6. A の代わりに他のノートをチューニングする場合は、PITCH MODE を長押しし、任意のノートを押してください。
7. これで、TD-3 で音を出せるようになりました。シンセサイザーコントロールやディストーションで色々試して、サウンドへの効果をお聴きください。

信号フロー

TD-3 内部の信号パスは、下記の通り左から右へと流れると考えられます:

1. TD-3 には、サウンドを生成する、ボルテージコントロールドオシレーター（VCO）が 1 つ搭載されており、WAVEFORM（波形）および TUNING（チューニング）で調節します。波形は逆三角波またはパルス波のいずれかを選択します。波形によるサウンドの変化をお聴きください。
2. 次は、ボルテージコントロールドフィルター（VCF）で、CUTOFF（カットオフ）周波数および RESONANCE（レゾナンス）を調節します。カットオフ周波数や、レゾナンスコントロールを色々試し、サウンドへの効果をお聴きください。この優れたローパスフィルターでは、TD-3 で作成するサウンドを大きくコントロールできます。カットオフ周波数の上の信号レベルを減少させるので、高次の倍音のレベルを下げます。
3. RESONANCE（レゾナンス）コントロールはクロスオーバー周波数の信号を強調します。最大に向かって回すと非常に面白い効果と、セルフオシレーションが得られます。
4. ENVELOPE（エンベロープ）および DECAY（ディケイ）コントロールは、カットオフ周波数をモジュレートすることで VCF に作用します。コントロール類は相関しているため、例えばエンベロープレベルが高いと、サウンドの減衰効果はより顕著となります。
5. ACCENT コントロールは、パターン内の、アクセントが適用されたノートだけに作用します。
6. ボルテージコントロールドアンプリファァー（VCA）出力は、DISTORTION（ディストーション）部へ移動します（ディストーション選択時）。VOLUME コントロールを使用して、ヘッドフォンおよびメイン出力のレベルを調節します。

7. ヘッドフォンを最初に装着する前に、音量レベルを低い状態にしておいてください。

パッチベイ部

パッチベイ部では、別ユニットやモジュラーシンセサイザー機器との多様な接続および、それぞれ異なる多数のサウンドを作成します。接続は標準 3.5 mm TS 端子で、定格電圧は仕様表に記載されています。ただし TD-3 はこれらの接続をしながらでも操作可能です；将来的なシステム拡張にご使用ください。

警告: 3.5 mm 入力端子は、過入力を避けてください。これらの端子は、仕様表に記載されたものと、正確に同じレベルの電圧しか受け付けません。3.5 mm 出力は、必ず、出力電圧に対応した入力端子にのみ接続してください。上記の指示にしたがわない場合、TD-3 または外部ユニットに損傷が生じる恐れがあります。

シーケンサー部

パターン書き込みやプレイの詳細、トラック書き込みやプレイの詳細については、本ガイドの後の章をご覧ください。

ファームウェアアップデート

当社ウェブサイト behringer.com を定期的にご覧になり、TD-3 シンセサイザーのファームウェアアップデートの有無をご確認ください。

ファームウェアファイルは、まずコンピューターにダウンロードし、それから TD-3 のアップデートを実行します。ファイルには、アップデート手順や詳しい指示が付属します。

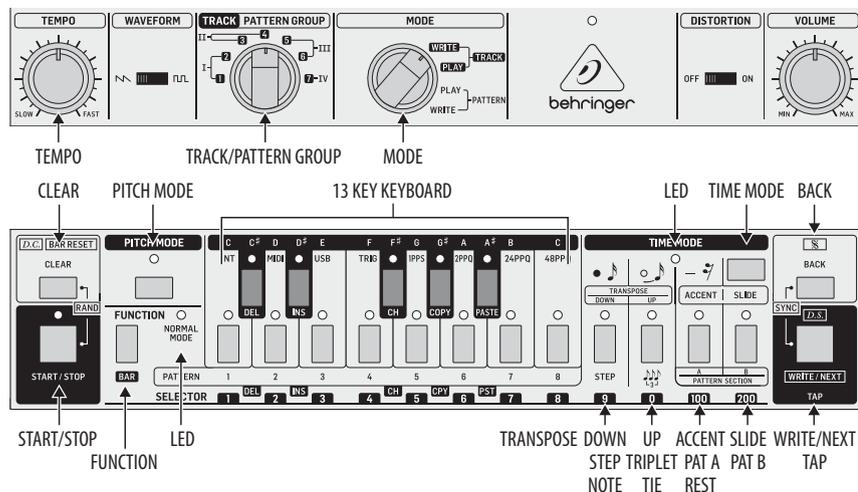
さあ、お楽しみください

TD-3 には、異なるベースインストゥルメントを再現し、ベースラインを作成するための多数の便利なコントロール類があります。パッチベイによってさらなる実験と、別のユニットやモジュラーシンセサイザー機材との拡張ができます。

これらのコントロール類をお使いいただくことで、音楽的創造性の可能性が無限になります！

当社は、TD-3 がお客様にお楽しみにお使いいただくだけ、そしてシステムの主力として活躍できることを、心より願っております。

TD-3 操作



概要

以下の詳細は、TD-3の基本的な操作の一部を示しています。必要な手順に慣れて、それが日常的になるまで、最初は簡単にしてください。

I、II、III、IVの4つのパターングループがあります。各パターングループには、最大8つのAパターンと8つのBパターンを含めることができます。各パターンには最大16のステップを含めることができます。デフォルトのステップは16分音符です。

希望する音符のパターンをピッチモードで入力し、次に各音符のタイミングをタイムモードで追加します。

パターンを書く

例として、パターングループIのパターン1Aをプログラムします。すべての書き込み(ピッチとタイミング)は、PATTERN WRITEモードで行われます。

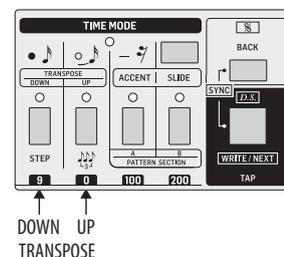
パターンを書く

例として、パターングループIのパターン1Aをプログラムします。すべての書き込み(ピッチとタイミング)は、PATTERN WRITEモードで行われます。

ピッチモードでノートを書く

1. MODEスイッチをPATTERN WRITEに切り替えます。
2. PATTERN GROUPスイッチをグループI、位置1または2に回します(どちらでも構いません)。

3. FUNCTIONを押すと、近くのNORMAL MODE LEDが点灯し、PATTERNスイッチのLEDの1つが点滅します。
4. PATTERN 1スイッチ(注C)を押すと、LEDが点滅し、プログラムの準備ができていないことを示します。(すでに点滅している場合でも、とにかく押してください。)
5. PATTERN Aスイッチ(100)を押すと、LEDが点灯します(すでに点灯している場合もあります)。
6. PATTERN 1Aがすでに存在する場合は、PATTERN 1スイッチを長押ししてから、CLEARを押します。ここでSTART/STOPを押すと、パターンが聞こえないはずですが、(再生モードを終了するには、もう一度START/STOPを押すことを忘れないでください。)
7. FUNCTIONを押しながら、必要なステップ数だけSTEPスイッチを押して、パターンのステップ数を入力します。たとえば、8回押すことができます。このステップをスキップすると、パターンは16ステップになります。
8. PITCH MODEを押すと、LEDが点灯します。これで、キーボードの13の音符のいずれかを押して、パターンに必要な音符を入力できます。
9. ノートのオクターブを変更するには、トランスポーズの上下スイッチのいずれかを押したままにして、必要なノートを押します。

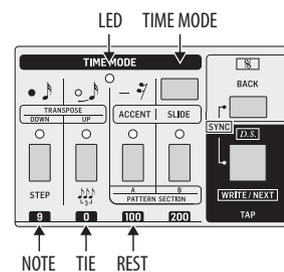


メモの確認と編集

10. Tノートのパターンを聞くには、PITCH MODEを押してパターンの最初に戻り、WRITE/NEXTを押してノートを1つずつ再生します。(いつでもピッチモードを押して、最初に戻ります。)
11. 1再生したばかりのノートを変更するには、戻るを押してそのステップに戻ります。次に、新しいノートを押します(または、オクターブを変更するには、トランスポーズの上下のスイッチのいずれかを押しながら、目的のノートを押します)。
12. すべてのノートが演奏されるまでWRITE/NEXTを押し続けるか、PITCH MODEを押して開始に戻るか、FUNCTIONを押してPITCHMODEを終了します。
13. パターン全体をやり直すには、手順3以降を繰り返します。

タイムモードでタイミングを書く

すべての音符を入力したら、タイムモードで各音符のタイミングを入力する必要があります。注: タイムモードでは、音は聞こえません。



14. TIME MODEスイッチを押すと、LEDが点灯します。

15. タイムモードでは、上記のように3つのスイッチを使用して、ノートをそのまま再生したり、TIEやRESTを追加したりできます。

たとえば、16分音符の場合、次の3つのスイッチを押すことができます: 音符、休符、音符、音符、タイ、音符、音符、タイ、ノート、ノート、タイ、ノート、ノート、ノート、ノート、タイ、ノート。必要なノート数(上記の手順7で設定)に達すると、自動的にタイムモードが終了します。

注: すべてのノートをそのまま再生するには、タイムモードが終了するまでノートスイッチを繰り返し押します。これにより、単なるアルペジオが作成されます。

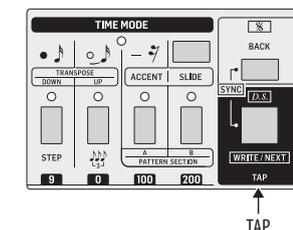
タイミングの確認と編集

16. タイミングがOKであることを確認するには、TIME MODEを押して、WRITE/NEXTを押してパターンステップを1つずつ繰り返します。LEDを見て、どのステップが音符、タイ、または休符であるかを確認します。
17. パターンのタイミングを変更するには、手順14と15を繰り返して、新しいタイミングを再入力します。(パターンの最初に戻るには、いつでもタイムモードを押してください。)
18. ノートとタイミングが追加されたので、FUNCTIONを押して通常モードに戻り、START/STOPを押してパターンを再生できます。パターンが繰り返されると、必要に応じてTEMPOを変更したり、シンセサイザーのコントロールを調整したりできます。

代替タイミング方法

タイミングを入力する別の方法があります:

19. FUNCTIONを押してからSTART/STOPを押して、既存のパターンを再生します。



20. CLEARスイッチを押すと、パターンの先頭にダウンビートのあるメトロノームが聞こえます。

TD-3 操作 (続く)

1. 希望のタイミングで TAP スイッチをタップします。これで問題が解決する場合は、テンポを下げてください。サステインを追加するには、TAP を押し続けます。
2. タイミングが良くなるまで手順 20 と 21 を繰り返します (または、この方法が必要な場合は手順 14 と 15 を繰り返します)。

アクセントとスライドの追加または削除

3. PATTERN WRITE MODE のまま、PITCH MODE を押すと、LED が点灯します。WRITE / NEXT を繰り返し押し、現在のパターンの各ノートを再生します。
4. アクセントやスライドを追加したいメモに到達したら、WRITE / NEXT を押し続けます (離さないでください)。変更したいメモを過ぎた場合は、最初に BACK を押してから、WRITE / NEXT を押し続けます。
5. 必要に応じてアクセントやスライドを押して、メモに追加します。(これらがすでにこのメモに追加されている場合は、削除されます。) 次に、WRITE / NEXT を放します。
6. ACCENT コントロールノブは、ACCENT が適用されているノートにのみ影響します。
7. パターンの最後の音符がスライドの場合、次のようになります。
8. TRACK PLAY モードでは、これはトラック内の次のパターンにスライドします (パターンがトラックに追加されたとき)。
9. PATTERN WRITE / PLAY モードでは、パターンが 1 つしかない場合は、パターンの先頭にスライドします。パターンが 2 つ以上ある場合は、次のパターンにスライドします。

パターンを再生する

MODE スイッチが PATTERNWRITE の位置にあるときにパターンを演奏することはできますが、通常のパターンの演奏では PATTERNPLAY の位置を使用してください。これにより、CLEAR スイッチで誤ってパターンを消去するのを防ぐことができます。

パターンは、PATTERN GROUP スイッチを位置 I、II、III、または IV に設定してから、PATTERN スイッチ 1~8、および A スイッチと B スイッチを使用して呼び出されます。

1. MODE スイッチを PATTERNPLAY の位置に回します。
2. PATTERN GROUP スイッチを、希望のパターンが保存されているグループ (I、II、III、または IV) に切り替えます。
3. FUNCTION スイッチを押すと、NORMAL MODELED が点灯します。

4. 目的の PATTERN スイッチ 1~8 を押すと、LED が点滅します。
5. 目的の A または B スイッチを押すと、その LED が点灯します。
6. START / STOP スイッチを押してパターンを再生します。
7. シンセサイザーのコントロール、テンポ、ディストーションを調整して、楽しんでください。
8. ピッチモードを押したまま、キーボードの 13 のキーのいずれかを押すと、パターンが再開したときに現在のパターンがそのキーに移調されます。
9. パターンの再生中に、別の PATTERN スイッチ 1~8、または A または B を押すと、現在のパターンが終了するとすぐに再生されます。
10. PATTERN スイッチを長押ししてから同時に別のスイッチを押すと、両方のパターンとその間のすべてのパターンが選択され、順番に演奏されます。これは、トラックを作成する前に複数のパターンを聞く良い方法です。

トラック

いくつかのパターンを作成したら、それらを一緒に追加して TRACK を形成できます。

1. MODE スイッチを TRACK WRITE の位置に回します。
2. TRACK スイッチを 1~7 の位置に回します。これにより、使用するパターングループも選択されます。たとえば、TRACK 1 と 2 は、PATTERN GROUP II に保存されているパターンからのみ選択できます。TRACK 3 と 4 は、PATTERN GROUP II からのみパターンを選択できます。
3. CLEAR を押して、トラックを最初のリセットします。
4. START / STOP を押すと、TD-3 は選択したトラックの現在のパターンを再生します。(トラックはユニットの再生中にのみ書き込まれ、停止することはありません。)
5. トラックに追加する最初のパターンを選択します。たとえば、以前に録音したパターン 2A を再生したい場合は、すでに選択されていても 2 (ノート D) を押してから A (ラベル 100) を押すと、パターン 2A が再生されます。
6. WRITE / NEXT を押して、これをトラックに追加します

7. 同じ方法で次のパターンを選択します。トランスポーズを追加するには、ピッチモードを押しながらキーを選択すると、パターンの演奏によってピッチが新しいキーに変わります。
8. このパターンを入力するには、WRITE / NEXT を押します。
9. 同じ方法でパターンを追加し続けます。
10. 最後のパターンに到達したら、CLEAR を押して、これがトラックの最後のパターンであることを TD-3 に知らせます。
11. WRITE / NEXT を押します。
12. START / STOP を押して終了します。

トラックの再生

1. MODE スイッチを TRACK PLAY の位置に回します。
2. TRACK スイッチを目的のトラックに回します。
3. CLEAR を押して、トラックを最初のリセットします。
4. START / STOP を押してトラックを再生します。

トラックからのパターンの削除

トラックから 1 つのパターンを削除するには、そのパターン番号を選択するだけです。たとえば、トラックの 3 番目のパターンを削除するには:

1. MODE スイッチを TRACK WRITE の位置に回します。
2. TRACK スイッチを編集するトラックに回します。
3. FUNCTION キーを押しながら PATTERN3 を押して、トラックの 3 番目のパターンを選択します。
4. FUNCTION を押しながら DEL (C シャープ) を押して削除します。
5. MODE スイッチを TRACKPLAY の位置に回します。
6. CLEAR を押して、トラックを開始にリセットします。
7. START / STOP を押してトラックを再生し、変更を聞きます。

トラックへのパターンの挿入

たとえば、トラックの 5 番目のパターンの前にパターンを追加するには:

1. MODE スイッチを TRACK WRITE の位置に回します。
2. TRACK スイッチを編集するトラックに回します。
3. FUNCTION キーを押しながら PATTERN5 を押して、トラックの 5 番目のパターンを選択します。
4. FUNCTION を押しながら INS (D シャープ) を押して追加します。新しいパターンがトラックに追加されます。
5. START / STOP スイッチを押すと、追加された現在のパターンが再生されます。
6. セレクター 1~8 と A スイッチと B スイッチを押して、演奏したいパターンを選びます。選択したパターンが再生されます。
7. TAP を押して変更を保存します。
8. START / STOP を押して再生を停止します。
9. MODE スイッチを TRACK PLAY の位置に回します。
10. CLEAR を押して、トラックを開始にリセットします。
11. START / STOP を押してトラックを再生し、変更を聞きます。

トラックの上書き

1. 既存のトラックを新しいトラックで上書きできます。短いトラックで既存のトラックを上書きする場合、トラック内のすべてのパターンを削除する必要はありません。これは、新しいトラックが最後のパターンを再生すると、自動的に最初に戻るためです。

TD-3 ポリチェーン機能

システムモード

POWER LED	モード
アンバー	ノーマルモード
赤	ポリチェーンモード (再生されていません)
緑	ポリチェーンモード (再生)

「SynthTool.exe」を使用して、ポリチェーンモードを構成してください。

ポリチェーンモード中は、POWERLEDが赤に変わります。

MIDI 情報

MIDI メッセージ

	状態	2 番目	三番	パラメータ	説明
チャンネルメッセージ	8n	kk	vv	[0, 7F]	ノートオフ
	9n	kk	vv	[0, 7F]	ノートオン
	Bn	7B	—	—	すべてのメモをオフ
	En	bb	bb	[0, 3FFF]	ピッチベンド
SysRT	F8	—	—	—	タイミングクロック
	FA	—	—	—	開始
	FB	—	—	—	継続する
	FC	—	—	—	やめる

例

状態	状態
注意事項	90 3C 64
注意してください	80 3C 40
すべてのメモをオフ	B0 7B

注: 1、MIDI 入力チャンネル 1。

技術仕様

シンセサイザーアーキテクチャ

声の数	モノフォニック
タイプ	アナログ
発振器	1
VCF	1 ローパス
封筒	1

接続性

電源入力	DC 入力コネクタ
電源スイッチ	プッシュボタンのオン / オフ
MIDI イン / スルー	MIDI 入力および MIDI スルー、5 ピン DIN
USB (MIDI)	USB 2.0、タイプ B
出力	ライン出力: ¼" TRS、不平衡、最大 +8 dBu
出力インピーダンス	1.5 kΩ
ヘッドホン	3.5 mm TRS、最大 50 mW / 32 Ω (1 KHz、1% THD)
ヘッドフォンの出力インピーダンス	15 Ω

USB

タイプ	クラス準拠の USB2.0、タイプ B
サポートされているオペレーティングシステム	Windows 7 以降 Mac OS X 10.6.8 以降

入力と出力 (TS 3.5 mm)

入力	フィルターイン: +12 dBu 同期: 2.5 V 以上
出力	CV 出力: +1V~+5 V (1 ボルト / オクターブ) ゲートアウト: オフ: 0 V; オン: +12 V

電力要件

外部電源アダプター (付属のアダプターのみ使用)	9 V DC 670 mA
消費電力	最大 2 W
インジケータ	電源 LED

環境

動作温度範囲	5°C – 45°C (41°F – 113°F)
--------	---------------------------

物理的

寸法 (H x W x D)	56 x 305 x 165 mm (2.2 x 12 x 6.5")
重量	0.8 kg (1.8 lbs)
積み込み重量	1.4 kg (3.1 lbs)

その他の重要な情報

JP その他の重要な情報

1. ヒューズの格納部 / 電圧

の選択: ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230V と 120V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。

2. 故障: Music Tribe ディーラーがお客様のお近くにいるときは、musictribe.com の “Support” 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の “Support” 内にある “Online Support” でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。

3. 電源接続: 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

We Hear You